

一般的なオンライン会議システムの課題



プラットフォームが共通である必要性。

各企業ごとに異なるオンライン会議システムを利用している場合、どちらかの企業は相手方企業の条件に合わせて、アプリケーションをダウンロードしたり、新たにアカウント登録を行うなど、プラットフォームを共通化させる必要がありました。

どのような相手ともスムーズにオンライン会議を行うために様々なサービスについて準備しなくてはならないのでしょうか。オンライン会議のシステムが数多く普及すればするほど手続きは煩雑化します。



サービス毎に異なる操作と機能に、戸惑う。

そもそも会議とは、準備・進行・合意という基本的な流れ目標があり、また会議進行上のファシリテーションスキルも必要です。会議前後と会議進行・プレゼンテーションの方法は多様であり、その多様性こそが会議の成果につながることを私たちは知っています。

この様な多様性をコンピューター上で再現できるようにするために、オンライン会議システムの仕組みは高度に進化し、サービスごとに特徴のある機能と操作性で差別化を図り、結果的に複雑な仕組みになります。



会議開始までの調整に手間と時間がかかる。

特定の相手と定例的な会議をするなら、どの様なサービスでも支障はないでしょう。しかし、初めての相手とオンライン会議を行う場合、どのサービスを利用し、会議を行うのか、互いに合意するまでのプロセスに時間と労力を必要としませんか？

会議の日時を設定し、オンライン上の会議室を準備し、参加者へ通知する、ファシリテーターの作業が容易であることはもちろん、参加者は誰でも簡単に利用できるオンライン会議システムであるべきです。

〇〇オンラインミーティングで解決できるポイント



専用アプリケーション 不要

〇〇オンラインミーティングは専用のアプリケーションを必要としません。システム導入企業様の管理者は勿論、会議にお招きする相手にも、ほとんど何も準備していただくことはありません。

便利で特徴的な機能は全て無くしました。誰でも簡単に利用することができる、そのことだけにフォーカスした結果、共通プラットフォームを整えたり、サービスごとに異なる操作や機能を理解したり、会議開始までの長い道のり、これらの課題をすべて解決しました。



独自ドメインの 信頼性

ほとんどのオンライン会議システムはASPにより提供されます。そのサービスプロバイダーのURLを拝借して、あなたの会議室を一時的に借り受けるわけです。そのサービスが有名であれば、ブランドの信頼性に頼ることもできます。しかし、あくまでも貸会議室です。

〇〇オンラインミーティングは、導入企業様が保有する独自ドメインで運用が可能です。会議にお招きする方を、いわばオンライン上の本社所在地にお越しいただくイメージです。



オープンソースの 安全性

〇〇オンラインミーティングは、オープンソースのWordpressおよび を利用して、これらをAPIによって連携させることで、簡単にオンライン会議の仕組みを利用できるようにしたものです。オープンソースとは定められたライセンスの範囲において無償で利用できるだけでなく、プログラムコードが衆人環視の中で開発されることから、悪意のある不正なコードが忍び込む可能性は極めて低く、これらを利用することで一定の安全性を担保することができます。

〇〇オンラインミーティングなら、誰でも使えます。

会議の**主催者**がすべきことは、たったこれだけです。

ログインします。



会議室を設定します。



参加者に会議を通知します。



管理者宛てメールを確認します。



会議室にログインします。



会議の**参加者**がすべきことは、たったこれだけです。

参加者宛てメールを確認します。



パスワードを入力します。



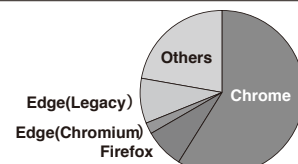
会議を開始します。



あらかじめ準備していただくのは、WEB ブラウザだけです。



ブラウザシェアの統計によれば、Microsoft Edge のユーザーが最新版 Chromium 版へ移行していくことを考慮すると、インターネット利用者の約 78%の方が、特別な準備を必要とすることなく、〇〇オンラインミーティングを利用可能です。



ブラウザシェアは 2020 年 7 月 20 日時点、参照元: <https://gs.statcounter.com/browser-market-share/desktop/japan>

